

JCMAS

社団法人 日本建設機械化協会規格

履帯式建設リサイクル機械 — 仕様書様式

JCMAS F 019: 2003

平成 15 年 3 月 31 日 制定

社団法人 日本建設機械化協会

まえがき

この規格は、社団法人日本建設機械化協会規格 (JCMAS)並びに標準化推進に関する規定に基づいて、国内標準委員会の審議を経て会長が制定した社団法人日本建設機械化協会規格である。

この規格の一部が、技術的性質を持つ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。社団法人日本建設機械化協会の会長及び国内標準委員会は、このような技術的性質を持つ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案出願にかかわる確認について、責任をもたない。

平成 14 年 11 月 22 日 社団法人日本建設機械化協会国内標準委員会で審議・承認

WTO/TBT協定に基づく意見受付開始日：平成 15 年 1 月 15 日

意見受付終了日：平成 15 年 3 月 15 日

制定：平成 15 年 3 月 31 日

この規格についての意見又は質問は、社団法人日本建設機械化協会標準部（〒105-0011 東京都港区芝公園 3 丁目 5-8 機械振興会館 201-2 Tel 03-5776-7858）にご連絡ください。

履带式建設リサイクル機械 — 仕様書様式

Crawler mounted recycling equipment for construction waste

— Standard form of specifications

1. 適用範囲 この規格は、以下に掲げる建設副産物（コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊、廃木材及び建設発生土など）のリサイクルに使用する履带式建設リサイクル機械の仕様書の様式とその記入要領について規定する。

備考：履带式建設リサイクル機械以外の仕様書にこの様式を準用する場合は、必要に応じて別に項目を掲げて記述する。

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。

JIS D 0006-1 土工機械—エンジン—第1部：ネット軸出力試験方法

JCMAS F 018 履带式建設リサイクル機械—用語

3. 仕様書の様式 仕様書の様式は、次による。

3.1 仕様書は、付表の様式による。

3.2 仕様書は、履带式建設リサイクル機械の諸元及び性能の概略を示すもので、特記しない限り、製造業者の規定による標準仕様・標準装備で正規の調整を行った新車の状態とする。記入の際には、目的に応じて項目を適当に選んでも差し支えない。

なお、各部の構造、材料なども必要に応じて付記する。

3.3 仕様書は、必要に応じて、全体図などの図面を添付する。

4. 仕様書記入要領 仕様書の記入順序及び記入要領は、次による。

4.1 一般 仕様書の一般的記入要領は、次による。

4.1.1 仕様書に記入する数値は、特記しないものは整数値とする。小数値を記入する場合の有効数字のけた(桁)数は、各項の規定による。

4.1.2 数値の丸め方は、特に指定しない限り、次による。

a) 質量は、有効数字を上位3けたとし、4けた目を四捨五入する。ただし、1 000kg 未満のものは、四捨五入して 10kg 単位とする。

b) 力は、有効数字を上位3けたとし、4けた目を四捨五入する。ただし、10 000N 未満のものは、四捨五入して 100N 単位とする。

c) 完成機寸法、本体寸法及び作業機寸法は、10mm 未満を四捨五入して 10mm 単位とする。ただし、1 000mm 未満の寸法は、5mm 単位に丸める。

d) その他の場合は、有効数字の次のけたの数値を四捨五入する。

4.2 形式名称 製造業者の略称、形式名、機種名の順序に記入する。

4.3 製造業者名 製造業者名には、輸入業者名を含む。

4.4 用途 主な用途を対象とする建設副産物の種類、リサイクル方法の順序に記入する。

4.5 機械質量 JCMAS F 018 の 3001 に規定する機械質量(kg)を記入する。

4.6 寸法 次の項目を記入する。輸送時の寸法が異なる場合は、括弧内に付記する。

4.6.1 全長 作業姿勢における完成機の最大長さ(mm)(付図 1 の L1)を記入する。輸送状態の寸法が異なる場合は、付記する。

4.6.2 全幅 作業姿勢における完成機の最大幅(mm)(付図 1 の W1)を記入する。輸送状態の寸法が異なる場合は、付記する。

4.6.3 全高 作業姿勢における完成機の基準地表面からの最大高さ(mm)(付図 1 の H1)を記入する。履板突起の高さを含む。輸送状態の寸法が異なる場合は、付記する。

4.7 性能

4.7.1 エンジン出力 JIS D 0006-1 に規定する定格出力(kW)及び定格回転速度(min^{-1})を記入する。

4.7.2 処理装置形式 搭載している処理装置の形式を記入する。

なお、廃木材用建設リサイクル機械では、原料供給装置の形式を付記する。

4.7.3 処理装置供給寸法 JCMAS F 018 の 3011 に規定する寸法(mm)を記入する。寸法が変化する場合、最大値を記入する。

なお、寸法が表示する部位を括弧内に併記する。

また、供給装置が無く上記寸法を特定できない場合は、処理装置自体の開口寸法で表示する。

4.8 各装置 各装置の記入順序及び記入要領は、次による。

なお、その装置を持たない機械では、その項の表示を不要とし、一方で、同一機能の装置を複数持つ場合は、それぞれを併記する。

また、装置特有の項目、機構等がある場合は、形式、数値等を記入する。

4.8.1 ホッパ装置

a) **形式** 鋼製固定式又は可変式の別を記入する。

b) **寸法** ホッパ開口部の寸法(mm)を記入する。

c) **容量** ホッパ上端までの平積容量(m^3)を記入する。

d) **積込高さ** 作業状態での基準地表面からホッパ上端までの高さ(mm)を記入する。

4.8.2 供給装置

a) **形式** 振動グリズリフィーダ、タブ式フィーダなどの別を記入する。

b) **寸法** フィーダの幅×長さ(付図 1 の W5×L4)(mm)を記入する。

c) **駆動方式** 油圧駆動式又は機械駆動式の別を記入する。

4.8.3 添加剤供給装置

a) **形式** 固体添加又は液体添加の別を記入する。

b) **容量** 添加剤貯留タンクの容量(m^3)を記入する。

c) **駆動方式** 油圧駆動式又は機械駆動式の別を記入する。

4.8.4 処理装置 原料の処理装置について、次の項目を記入する。

- a) 形式 ジョークラッシャ、インパクトクラッシャ又はその他の別を記入する。
- b) 寸法 処理装置自体の特性を表示する寸法であり、JCMAS F 018 の 3011 に規定する寸法(mm)を記入する。なお、寸法が表示する部位を括弧内に併記する。
- c) 回転速度 処理装置の最高回転速度(min^{-1})を記入する。
- d) 駆動方式 油圧駆動式又は機械駆動式の別を記入する。

4.8.5 排出装置 製品を車体外に排出する装置について、次の順序で記入する。

- a) 形式 ベルトコンベヤ、スクリーンコンベヤなどの別を記入する。
- b) 寸法 JCMAS F 018 の 3013 に規定する寸法(mm)を記入する。
- c) 排出速度 JCMAS F 018 の 3014 に規定する速度(m/min)を記入する。
- d) 排出高さ JCMAS F 018 の 3015 に規定する寸法(mm)を記入する。
- e) 駆動方式 油圧駆動式又は機械駆動式の別を記入する。

4.8.6 エンジン

- a) 種類 ディーゼルエンジン又はガソリンエンジンの別を記入する。
- b) 形式 エンジンの製造業者名又は略称及び形式名称を記入する。
- c) 出力 JIS D 0006 によるエンジン定格出力(kW)及び定格回転速度(min^{-1})を記入する。

4.8.7 油圧装置、動力伝達装置

a) 油圧ポンプ

- 1) 用途、形式及び個数 形式は、固定容量ベーン形、固定容量ギヤ形、可変容量プランジヤ形などの別を記入する。
- 2) 吐出し量及び吐出し圧力 設定最高回転速度における最大吐出し量(l/min)及び設定された最大吐出し圧力(MPa)を記入する。

4.8.8 走行装置

- a) タンブラ中心距離 JCMAS F 018 の 3016 に規定する寸法(mm)を記入する。
- b) 履帯中心距離 JCMAS F 018 の 3017 に規定する寸法(mm)を記入する。
- c) 履板幅 履板の幅(附図 1 の W3)(mm)を記入する。
- d) 接地圧 機械質量を履帯接地面積(JCMAS F 018 の 3021 参照)で除した値を、キロパスカル(kPa)単位の整数値で記入する。
- e) 走行速度 各速度段における最高走行速度(km/min)を記入する。2 速以上あるときは全部を表示する。
- f) 登坂能力 JCMAS F 018 の 3024 に規定する登坂能力の値を、坂路の角度(度)で記入する。
- g) 駆動方式 走行装置の駆動方式を記入する。

4.8.9 安全装置 機械に装備している安全のための緊急停止装置などを記入する。

4.9 水・油類の種類と容量 次の項目について、水・油脂類の指定する種類、規定する全容量及び交換容量を、リットル(l)単位で記入する。

- a) 燃料タンク
- b) 作動油タンク
- c) エンジンオイル

d) エンジン冷却水

4.10 附属品及び工具 部品名所、個数などを記入する。

4.11 アタッチメント 主なアタッチメントについて、その名称及び用途、形式、寸法、駆動方式などを記入する。

4.12 その他 その他必要と思われる事項を記入する。

付表 履带式建設リサイクル機械仕様書様式

形式名称
 製造業者名
 用途
 機械質量 kg
 寸法 全 長(付図 1 の L1) mm (輸送時 mm)
 全 幅(付図 1 の W1) mm (輸送時 mm)
 全 高(付図 1 の H1) mm (輸送時 mm)
 性能 エンジン定格出力 kW / min⁻¹
 原料供給装置形式
 処理装置形式
 処理装置供給寸法(付図 1 W4×L5) mm × mm (×)
 ホッパ装置 形 式 式
 寸 法 mm × mm (×)
 容 量 m³
 積込高さ(付図 1 の H2) mm
 供給装置 形 式
 寸 法(付図 1 の W5×L4) mm × mm (×)
 駆動方式 駆動式
 補助剤添加装置 形 式
 容 量 m³
 駆動方式 駆動式
 処理装置 形 式
 寸 法 mm × mm (×)
 回転速度 min⁻¹
 駆動方式 駆動式
 排出装置 形 式
 寸 法 mm × mm (×)
 排出速度 m/min
 排出高さ(付図 1 の H3) mm ()
 駆動方式 駆動式
 エンジン 種 類
 形 式
 定格出力 kW / min⁻¹

油圧ポンプ

用途	形式	個数	最大吐出量	最大吐出圧力
			ℓ/min	MPa

走行装置	タンブラ中心距離(付図 1 の L2)	mm
	履帯中心距離(付図 1 の W2)	mm
	履板幅(付図 1 の W3)	mm
	接地圧	kPa
	走行速度	km/h
	登坂能力	度
	駆動方式	駆動式
安全装置	緊急停止スイッチ	個

水・油類の種類及び容量

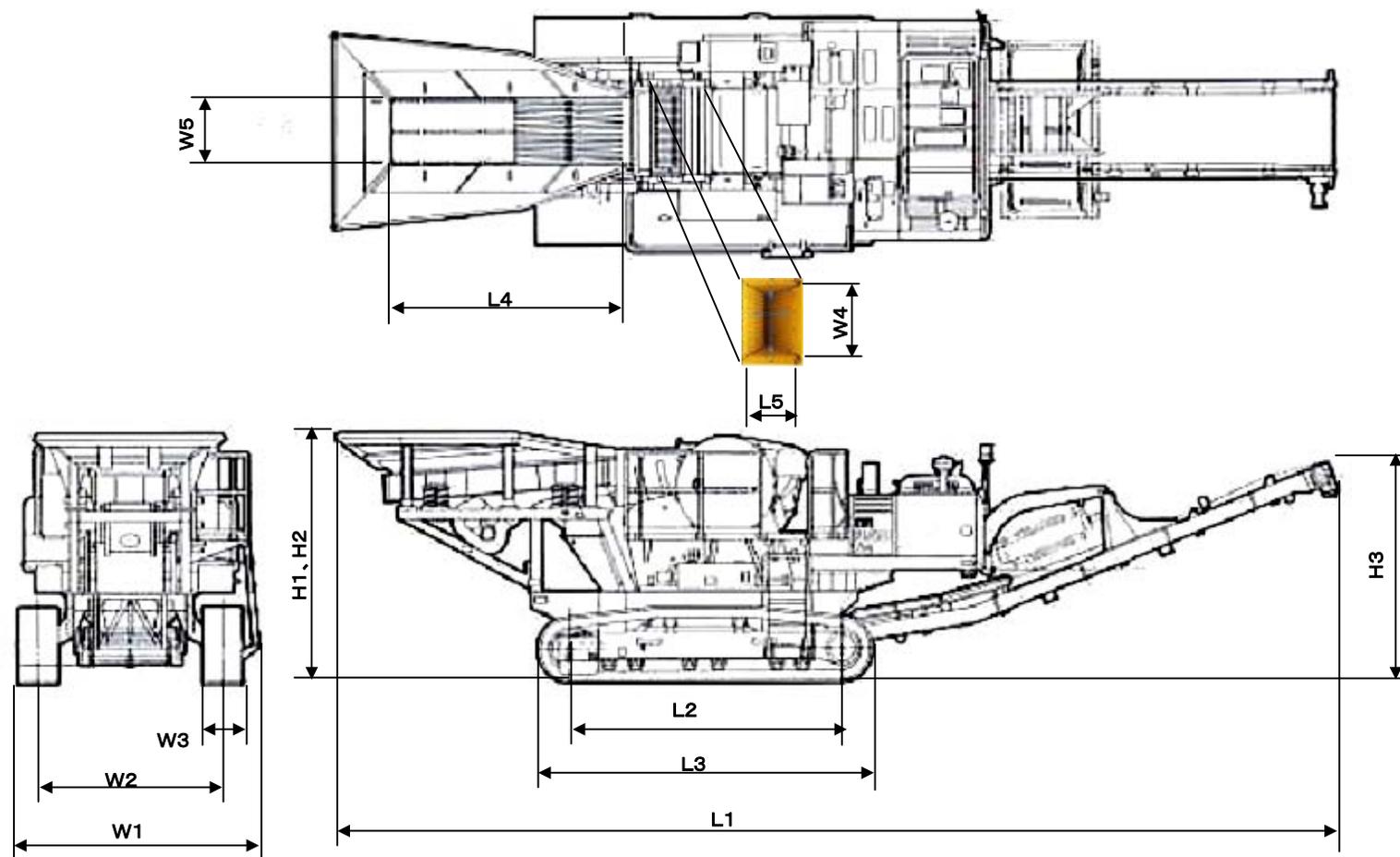
	水・油類の種類	全容量	交換容量
燃料タンク		ℓ	ℓ
作動油タンク		ℓ	ℓ
エンジンオイル		ℓ	ℓ
エンジン冷却水		ℓ	ℓ

付属品及び工具名称

品名	個数	備考
	個	

アタッチメント

その他



付図1 寸法

履带式建設リサイクル機械 — 仕様書様式 解説

この解説は、本体及び附属書に規定・記載した事柄、参考に記載した事柄、並びにこれらに関連した事柄を説明するもので、規格の一部ではない。

1. **制定の趣旨** この規格は、履带式建設リサイクル機械の製造業者及び購入者が仕様書を作成する際の、用語、記載項目、記入要領について統一するために作成された。
2. **制定の経緯** この規格の原案は、社団法人日本建設機械化協会機械部会ショベル技術委員会自走式リサイクル建設機械分科会において作成され、国内標準委員会の審議・承認の後、WTO/TBT協定に基づく意見広告を経て制定された。
3. **審議中に問題となった事項** 特になし。
4. **適用範囲** この規格は、自走式建設リサイクル機械のうち、下記の分類に示す履带式の機械に適用する。

(1) 対象物による分類

対象物	種 類	搭載処理装置
コンクリート塊 アスファルトコンクリート塊	自走式クラッシャ	ジョークラッシャ インパクトクラッシャ ロールクラッシャ
廃木材	自走式木材破碎機 (タブ式、横入れ式)	ドラム式カッタ ディスク式カッタ 二軸剪断機
	自走式チップ	ドラム式カッタ ディスク式カッタ (1段階式、2段階式)
建設発生土	自走式土質改良機	ロータリーハンマ式ミキサ パドル式ミキサ 4軸直列混合式ミキサ

(2) 架装による分類 (参考)

区分	現場内移動方法
自走式	履带式
	トラック搭載式
移動式	トレーラ荷台搭載式
	スキッド式 (鋼製架台)
定置式	定置固定式

5. 規定項目の内容

5.1 **1. 適用範囲** この規格は、履带式の自走式建設副産物建設リサイクル機械に限定しており、履带式建設リサイクル機械の共通仕様書として適用される。

履带式以外の仕様書に本規格を準用する場合は、項目が異なる部分があるので適宜追加削除を行う

ものとする。

5.2 3. 仕様書の様式 付表の様式は、必要な項目のみ掲げたものであり、更に項目追加することは差し支えない。また、該当機に付表の項目に該当する部分が無い、又は必要の無い場合は、その項目を省略して差し支えない。

5.3 4.2 形式名称 機械の機種名と自走式建設リサイクル機械の区分を併記する。なお、木材破砕機は機能が異なるため2つに分けて区分する。

名称は、自走式クラッシャ、自走式木材破砕機、自走式木材チップ及び自走式土質改良機のいずれかから選択し記入する。

5.4 4.4 用途 本機械の対象とする建設副産物の種類によって処理方法が異なるため、本項目を設定した。廃木材の破砕用、建設発生土の改良用などと記入する。

5.5 4.5 機械質量 燃料、冷却水、潤滑油、作動油の量をそれぞれその機械に規定された値とした場合の質量を記入する。ただし、乗員の質量は含まない数字とする。

また、輸送時の質量が異なる場合は、括弧内に輸送時最大の分割質量を記入する。

5.6 4.6 寸法 作業を行う状態での寸法を記入する。また、輸送時の寸法が異なる場合は括弧内に付記する。

なお、全高は履板突起高さを含む数字を記入する。

5.7 4.7 性能 機械全体の性能を表す数字として、エンジン定格出力と処理装置の形式及び供給寸法を記入する。また木材破砕機では、原料供給装置の形式を付記する。

5.8 4.7.2 処理装置形式 極力下記から選択し記入する。なお、該当しない場合はできるだけ分かりやすい形式名を使用する。

- ・クラッシャ（ジョー、インパクト、ロール）
- ・カッタ（ドラム式、ディスク式）
- ・せん(剪)断機（二軸）
- ・ミキサ（ロータリーハンマ式、パドル式、4軸直列混合式）

5.9 4.8.1.c) ホッパ容量 ホッパ上端での平積容量を記入するが、固有の条件がある場合は括弧内に付記する。

5.10 4.8.3 添加剤供給装置 土質改良機にあつては、改良のための添加剤を供給する装置について、項目を設定し記入する。

5.11 4.8.5.b) 排出寸法 ベルトコンベヤにあつては、コンベヤ幅とコンベヤ長さを記入し、括弧内に部位を併記する。コンベヤ長さはヘッドプーリとテールプーリの中心間距離とする。

5.12 4.8.5.d) 排出高さ 基準地表面から製品排出部までの最大高さ。ベルトコンベヤにあつては、原則としてヘッドプーリ上面の高さを記入する。なお、括弧内に部位を併記する。

5.13 4.12 その他 適宜追加したい事項の内 **4.2~4.12** に含めにくいものがあれば本項に記載する（付属図書、塗装、運転指導など）

6. 懸案事項 特になし。

7. 引用に関する事項 特になし。

8. 特許権などに関する事項 特になし。

9. その他 特になし。

10. 原案作成委員会の構成表

国内標準委員会構成表

役割	氏名	所 属
委員長	大橋秀夫	学識経験者
委員	小松克行	厚生労働省労働基準局安全衛生部
	高橋和慶	経済産業省産業技術環境局標準課
	加山秀男	財団法人日本規格協会
	東 秀彦	学識経験者
	杉山庸夫	学識経験者
	西ヶ谷忠明	施工技術総合研究所
	外村圭弘	西尾レントオール株式会社
	桑原資孝	西松建設株式会社
	青山俊行	日本舗道株式会社
	岩本雄二郎	株式会社熊谷組
	青木義清	株式会社エスシーマシナリー
	慶寺省一	株式会社大林組
	菊地雄一	株式会社アクティオ
	和田和夫	株式会社小松製作所
	砂村和弘	日立建機株式会社
	陶山寛晃	新キャタピラー三菱株式会社
	藤本 聡	コベルコ建機株式会社
	本橋 豊	住友建機株式会社
	岡部幹夫	酒井重工業株式会社
	大村高慶	石川島建機株式会社
事務局	川合雄二	社団法人日本建設機械化協会
	渡辺 正	社団法人日本建設機械化協会
	西脇徹朗	社団法人日本建設機械化協会

機械部会ショベル技術委員会自走式リサイクル建設機械分科会

役割	氏名	所属
分科会長	森谷 幸雄	株式会社小松製作所
	(狩野 克巳	株式会社小松製作所)
委員	森川 勝	コベルコ建機株式会社
	(三成 幸夫	コベルコ建機株式会社)

	伊藤 広	オカダアイオン株式会社
	平澤 幸久	日立建機株式会社
	矢倉 直	新キャタピラー三菱株式会社
	中村 志郎	住友建機販売株式会社
	大倉 崇利	日立古河建機株式会社
	井上 芳人	マルマテクニカ株式会社
事務局	宮口 正夫	社団法人日本建設機械化協会

(文責 平澤幸久)